

# 定時制図書館便り

第1号 2018年1月31日(水)

図書館がいよいよ再開しました！熊本地震で損傷した床や本棚等が新しくなり、皆さんたちを迎える準備ができました。どうぞ湧心館高校図書館に足を運んでください。読みたい本がない時はリクエストにも応えています。

図書館開館に伴い、図書館便りを発行します。

第1号は、上妻校長先生に、定時制の生徒に読んでほしい本を2冊紹介していただきました。

4年生も、家庭学習期間中に是非読んでみてください。

## 漫画「君たちはどう生きるか」

原作：吉野源三郎 漫画：羽賀翔一（マガジンハウス）

主人公は、平凡な中学生、本田潤一。先年父親を亡くし、母親と二人で暮らしている。最近、近所に叔父さん（母の弟）が引っ越してきた。元編集者の結構インテリ。潤一は、最近、人間の存在や生きる意味など、ぼんやり考えるようになった。理科の授業で「分子」について勉強した後、ある日、デパートの屋上からちっぽけな人間を見て「人間は、この広い世界のまるで一分子だ」と感じた。叔父さんは、こんな見方をするようになった甥を地動説のコペルニクスから「コペル君」と呼び、以後コペル君は、叔父さんに導かれるように、友情、人間の本当の尊さ、世の中の仕組み、人間の偉大な歴史などについて、考えていく。



「コペル君」は、仲間のいじめをめぐって友達を裏切ってしまう、「僕なんて死んだ方がマシなんだ」と不登校になり深い苦悩にのた打ち回る。叔父さんは、そんなコペル君に何と言ったか？コペル君が理想を目指しながらも弱さも狡さも併せ持っている普通の少年だからこそ、身近なこととして引き込まれて読んでしまう。コペル君は自分だ、と。80年前のベストセラーが、全く色褪せることなく漫画になって現代に蘇った。

「好きなことだけで生きていく。」堀江貴文（ポプラ新書）



ニューリーダー「ホリエモン」の近著。「そんなことできっこない」と思い、これまで嫌いなこと辛いこともたくさんしてきた僕は、「好きなことだけ」というと、努力もしないで要領よく生きていくようなイメージが浮かび、少し斜に構えて読んでみた。

ところが、ホリエモンの生き方は、その対極にある。自分が本当にやりたいことは何なのか？ それが「好きなこと」。他人なんて気にする暇は無い。時間、組織、お金、欲望に振り回される暇は無い。好きなことをとことんやる。誰より努力する。無駄なことはしない。過去でも未来でもない。「今、ここ」に集中する。「今」する。どんな境遇でも、たとえ刑務所の中でも、「ここ」で実践する。行動する。「でも…」とできない言い訳を探さない。そんな時間は無い。人生は有限。無限ではない。「好き」を生きがいにする。没頭する。熱中する。ホリエモンが、話し言葉で若者に熱く語りかける。

## 芸術鑑賞『消えた海賊』感想

11月16日（木）に行った芸術鑑賞では、鑑賞態度もよく、皆さんから書いてもらった感想もほとんどが「大変良かった」というものでした。

定時制卒業生の永野愛理さんの活躍を今後も応援したいと思います。

♡感想♡

♪哲学的な内容が印象深く、色々考えさせられるような作品だと思った。ストーリーの人物達の各々の考え方に様々なことを思ったが、正解等なく、自分なりの考え方が必要ではないのかと意識を改めるきっかけになりました。（3年）



♪迫力があってとても楽しい公演でした。学校で見られるなんてとても感激です！皆さん、とても素敵で輝いていました。初めて演劇といったものを見て、堅苦しい、ピリピリしているイメージが、にぎやかで楽しい、見ても参加？しても楽しめるものなんだと思いました。自由や美しさや色々なものを、この公演で理解できました。人は様々なんだなと思いました。元気をもらいました！今日はありがとうございました！！（4年）

